

## 2023 JUA/AUA Resident Program 参加報告

坪井 一 朗 (鳥根大)

2023年4月28日から5月1日に米国イリノイ州シカゴで開催された米国泌尿器科学会 (AUA) Annual Meeting 2023 に JUA/AUA Resident Program で参加させて頂きましたのでご報告申し上げます。日本でもようやく5類感染症への引き下げが検討されている中、2022年に引き続き現地開催となった AUA2023 に参加することができました。今回が初めての渡米かつ AUA への参加であり、大変貴重な体験をさせていただくことができました。出国帰国にはさほど手間となることはなく、ワクチン接種証明、ワクチン接種証明の宣誓書、そして ESTA の3点でスムーズに通過できました。コロナ前に海外に渡航していた際には、入国審査でパスポートに判子を押されていた記憶でしたが、全て電子化されており非常にスムーズで、感動しました。また、昨年と同様ですが、米国でマスクをしている人々は全く見受けませんでした。

学会中のプログラムは期間が長くまたセッション数も多いため全て網羅する事はできませんでしたが、Plenary を中心にビデオセッションやポスターセッションを拝聴し、悪性腫瘍、男性不妊、ED、m/f LUTS、腎移植、など広く勉強することができました。また、最終日 Plenary の Take Home Massage で各分野の総まとめをしており、大変勉強になりました。

また、本プログラムの一環として Residents Bowl に参加させていただきました。全米から選出された residents が地域ごとに4~6人程度でチームを組み、全8チームで

泌尿器科の知識を競う大会です。米国チームに international member が1人参加します。今回は Southeastern section チームの一員として予選に出場させていただきました。出題範囲は、生理学、生化学、遺伝学、公衆衛生、そして臨床問題と非常に幅広い範囲が広く、日本の専門医を取り終えていましたが、ほとんど太刀打ちできませんでした。その中で次々と答えていく米国のレジデントのレベルの高さに非常に刺激を受けました (写真1)。今回私が参加した Southeastern section チームは予選タイムブレイクまでもつれ込んだものの、残念ながら惜敗してしまいました。懇親会で国際委員会の先生方とも話題になりましたが、是非日本で同様の試みをしていても面白いのではないかと感じました (写真2)。

また、今回学会が開催されたシカゴは、アメリカの中でも有数の大都市であり、数多くの観光地を保有しています。今回、リグレーフィールドでのカブスの試合、シカゴ美術館、スカイデッキシカゴ、リバークルージングなどを堪能することができました。

最後になりますが、本交換プログラムにご推薦頂きました当教室の和田耕一郎教授、そして応募選出いただきました (2022年10月)、このような機会を与えて下さった日本泌尿器科学会理事長 野々村祝夫教授、国際委員会委員長 市川智彦教授、そして数々の事務手続きをさせていただきました国際委員会担当 田中有希様、両泌尿器科学会事務局の方々はこの場をお借りして深く御礼申し上げます。

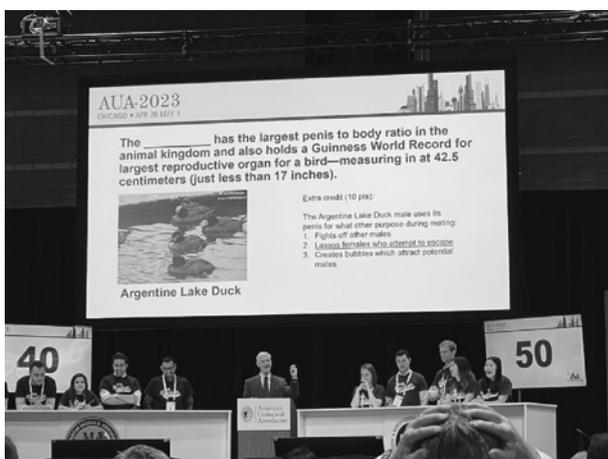


写真1 Residents Bowlの様子：決勝戦では動物の中で最も長い（体格比で）陰茎を持った動物を答えさせる場面もあった



写真2 レセプションにて：JUA 理事、国際委員会、Exchange Program、Resident Program の先生方と共にレセプション会場での一枚（筆者右端）